

# あかるく かしこく たくましく

令和6年11月27日 No. 31 文責：校長 佐野紳二

## 谷川俊太郎さん

二十億光年の孤独

人類は小さな球の上で  
眠り起きそして働き  
ときどき火星に仲間を欲しがったりする

火星人は小さな球の上で  
何をしてるか 僕は知らない  
(或あるいは ネリリシ キルルシ ハララしているか)  
しかしときどき地球に仲間を欲しがったりする  
それはまったくたしかなことだ

万有引力とは  
ひき合う孤独の力である

宇宙はひずんでいる  
それ故みんなはもとめ合う

宇宙はどんどん膨らんでゆく  
それ故みんなは不安である

二十億光年の孤独に  
僕は思わずくしゃみをした

「日本語を味わう名詩入門 19 谷川俊太郎」あすなろ書房 他

詩集だけでも 100 以上、絵本や散文集を合わせると 200 を優に超える谷川さんの作品のうち、何を紹介すればいいかはとても迷うところですが、今回は司書の西川先生にも協力していただき、小笠原小の図書室にもある谷川さんの本の中からいくつかを紹介させていただきます。

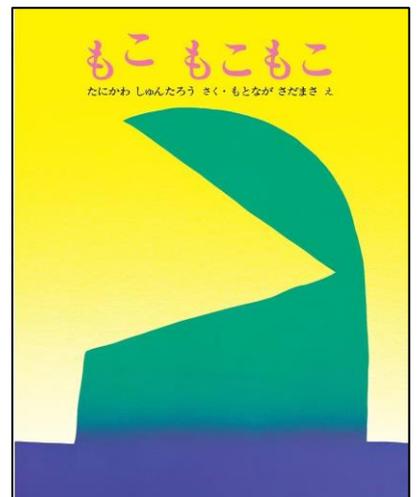
右に紹介したのは谷川俊太郎さん：作・元永定正さん：絵の「もこもこもこ」という絵本です。「しーん」「もこ」など、言葉はほとんど出てきませんが、とても面白い、ステキな絵本です。私も自分の子どもが小さかった頃、一緒に読んだことがある思い出深い一冊です。

「もこもこもこ」文研出版 →

テレビや新聞、ネットニュースなどさまざまなメディアで報道されているので皆さんご存じだと思いますが、詩人の谷川俊太郎さんが、今月13日に老衰のため都内の病院で亡くなりました。92歳でした。

上記の報道で谷川さんの功績についてはたくさん語られていたので、ここで改めて詳しく述べることはしませんが、教科書にもたくさんさんの詩が掲載され、4年生が音楽会で発表した「鉄腕アトム」の作詞をし、スイミーやにじいろのさかな、スノーピーの翻訳をするなど、その活躍は多岐にわたり、私たちにとって最も身近な詩人の一人でもあったと思います。

私も昨年発行の学校通信 No.50「詩を読む」の中で採り上げさせていただいたように、谷川さんの詩が大好きな者の一人です。今回、谷川さんの訃報を耳にして、何かしたい・何かしなければという思いが膨らみ、学校通信で再度、採り上げさせていただきました。とは言え、私が何かを語っても谷川さんのすごさや素晴らしさが伝わるわけでもありません。ということで、今号では紙面の許す限り谷川俊太郎さんの作品を紹介させていただきます。ことに



## 幸せ

わたしは幸せです  
でも世界は不幸な人でいっぱい  
わたしは探しています  
ここよりもっと良い世界を  
それはどこにあるのか  
それはどこを探してもなくて  
わたしが作っていくしかないものなのか

もっと良い世界を探して  
わたしは本を読みます  
でももっと大きくなったら  
きっと本を読むだけでは足りなくなる  
そしたら本から出て行きます  
どこへ向かって？誰のために？  
それをわたしは見つけます

わたしは幸せです  
でもわたしが幸せなだけでは  
世界は良くなれないと思うのです  
違いますか？

「谷川俊太郎詩集 たったいま」講談社 青い鳥文庫

## 自分をはぐくむ

悪いところと善いところ  
悪いことと善いことと  
ふたつはからみあっている  
木に巻きついた蔓のように

自分をはぐくむのは難しい  
自分を枯らすのは簡単だ

あなたを導くのは  
ほかでもないあなた自身  
あなたはあなた自身を超えていく  
自分を発見し続けることで

自分を大切にみつめたい  
今日も明日もいつまでも

「すこやかに おだやかに しなやかに」佼成出版社

## 交響楽

ヴァイオリンを弾いてる人は  
おでこに汗をかいているというのに  
シンバルを鳴らす人は  
もうずいぶん長い間待っているようだ  
音楽堂の外では  
ぶなの樹が西風と響きあう  
いたずら小僧たちが迷子の仔犬と響きあう  
一人の青年が一人の娘と響きあう  
オーケストラはそれらすべてを歌っている  
だから私も知るのだ  
この世で  
私に無縁なものは何ひとつないと  
私もまた目に見えぬシンフォニイの  
選ばれた奏者のひとりなのだ  
ホルンを吹く人のほっぺたが  
りんごのように丸くふくらむ  
いまオーケストラはその大きなので  
世界じゅうを歌っている

「どきん」理論社

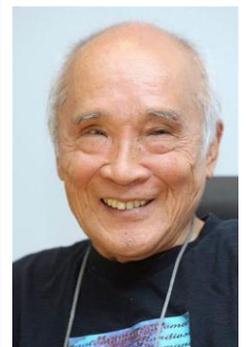
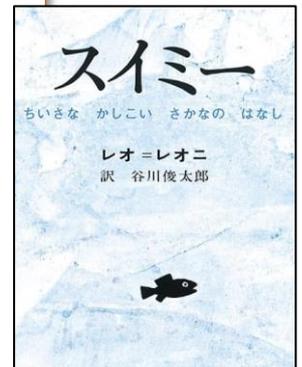
## ともだち

ともだちと てをつないで  
ゆうやけを みた  
ふたりっきりで  
うちゅうに うかんでる  
そんな きがした

ともだちとけんかして  
うちへかえった  
ころのなかが  
どろでいっぱい  
そんなきがした

ともだちも  
おんなじきもちかな

「ともだち」玉川大学出版社



歌っていいですか

歌っていいですか

独りの部屋であなたがうなされているとき

歌っていいですか

あなたの苦しい夢の中で

歌っていいですか

塹壕の中であなたが照準を合わせているとき

歌っていいですか

幼い日の思い出のしらべを

歌っていいですか

ふるさとを見失いあなたが路上にうづくまるとき

歌っていいですか

足元の野花の美しさを

歌っていいですか

もう明日はないとあなたが無言で叫んでいるとき

歌っていいですか

暮れかかる今日の光のきらめきを

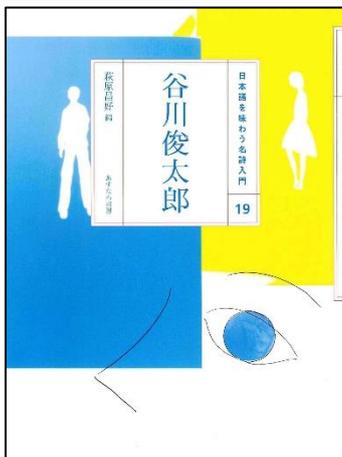
歌っていいですか

この世のすべてにあなたが背を向けるとき

歌っていいですか

愛を あなたとそして私自身のために

「すき」理論社



平和

平和

それは空気のように

あたりまえなものだ

それを願う必要はない

ただそれを呼吸していればいい

平和

それは今日のように

退屈なものだ

それを歌う必要はない

ただそれに耐えればいい

平和

それは散文のようだ

素気ないものだ

それを祈ることはできない

祈るべき神がないから

平和

それは花ではなく

花を育てる土

平和

それは歌ではなく

生きた唇

平和

それは旗ではなく

汚れた下着

平和

それは絵ではなく

古い額縁

平和を踏んづけ

平和を使いこなし

手に入れねばならぬ希望がある

平和と戦い

平和に打ち勝って

手に入れねばならぬ喜びがある

ジュニア・ポエム双書

「地球へのピクニック」 銀の鈴社

## うそ

ぼくはきつとうそをつくだろう  
おかあさんはうそをつくなというけど  
おかあさんもうそをついたことがあって  
うそはくるしいと知っているから  
そういうんだとおもう  
いっていることはうそでも  
うそをつきもちちはほんとうなんだ  
うそでしかいえないほんとのこと  
いぬだったもしくちがきけたら  
うそをつくんじゃなくいら  
うそをついてもうそがばれても  
ぼくはあやまらない  
あやまってすむよううそはつかない  
だれもしらなくてもじぶんは知っているから  
ぼくはうそといっしょに生きていく  
どうしてもうそがつけなくなるまで  
いつもほんとはあこがれながら  
ぼくはなんどもなんどもうそをつくだろう

「うそ」主婦の友社

## ひとりひとり

ひとりひとり違う目と鼻と口をもち  
ひとりひとり同じ青空を見上げる  
  
ひとりひとり違う顔と名前をもち  
ひとりひとりよく似たため息をつく  
  
ひとりひとり違う小さな物語を生きて  
ひとりひとり大きな物語に呑みこまれる  
  
ひとりひとりひとりぼっちで考えている  
ひとりひとりひとりでいたくない  
  
ひとりひとり簡単にふたりにならない  
ひとりひとりだから手がつながる  
  
ひとりひとりたがいに会うとき  
ひとりひとりそれぞれの自分を見つける  
  
ひとりひとりひとり始まる明日は  
ひとりひとり違う昨日から生まれる  
  
ひとりひとり違う夢の話をして  
ひとりひとりいっしょに笑う  
  
ひとりひとりどんなに違っていても  
ひとりひとりふるさとは同じこの地球

「ひとりひとり」成美堂出版

